

独創的なデザインを実現した 高級感あふれる 和モダンスタイルの スタンド付き醤油さし

1947年に創業し、ガラス瓶やガラス容器、ガラスキャップなどの販売を中心に事業を展開している株式会社関守製作所。同社がオリジナル製品を企画、開発、製作するにあたり、都産技研はどのような支援を行ったのか。同社代表取締役の関守 滋男 氏と支援を担当した城東支所の上野 明也 主任研究員に、製品化までの支援内容やプロセス、成果について聞きました。



(株)関守製作所の
スタンド付き醤油さし「syosa」



株式会社関守製作所
代表取締役
関守 滋男 氏

オリジナル製品を開発し 世界市場への進出を目指す

(株)関守製作所は、食品や化粧品、生活雑貨、医薬品などに使用されるガラス瓶を中心に、さまざまな用途に応じたガラス製品の販売を行っています。ただし、日本国内におけるガラス瓶の市場は、年々海外製品などの影響を受け、国産品のシェアが縮小しています。そこで同社は、古くから受け継がれてきた日本の伝統的な技術を活かしながら、新たな価値を持たせた“メイドインジャパン”のオリジナル製品開発に挑みました。

「醤油さしを選んだ理由は、世界的に注目を集めている日本の伝統的な食文化を、ガ

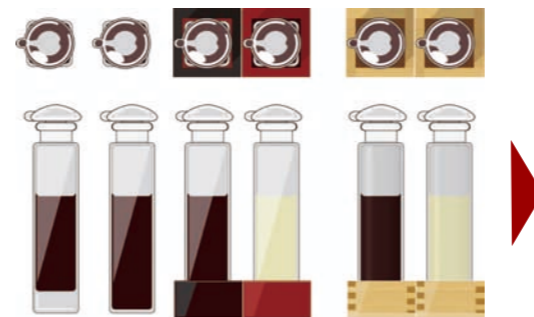
ラス瓶を販売する立場から支えたいと思ったからです。オリジナル製品をブランドとして育て上げ、将来的に海外の日本食レストランなどに売り込みたいというビジョンもありました」(関守氏)

しかし、オリジナルの醤油さしを自社で製品化するにあたり、企画や設計、デザインなどに関するノウハウを有していないという問題点が浮かび上がりました。イメージどおりの醤油さしをつくるためには、専門家のトータルサポートを受ける必要があります。そこで以前から製品デザインで依頼実績のあった都産技研に技術相談を行いました。

柔軟な発想と充実した設備 が独創的なデザインを実現

同社の要望は、“今までにない高級感のあるモダンでクールなデザイン”で、“液垂れしない機能的な醤油さし”をつくることでした。

「イメージを具現化すべく何度も打ち合わせを重ね、複数のデザインアイデアを提案しました。辿り着いたコンセプトは“自立しない醤油さし”です。自立しないということは、元の位置に戻してスタンドなどに立



データ上でのデザイン提案(写真左)からAMでの試作(写真中央)を経て、製品化(写真右)が進められた。

てなければならず、自然と“戻す”という“動作”もデザインできます。「syosa」という商品名は、そんな“醤油を使う動作”と“茶道の立ち居振る舞いを表す所作”の意味を込めて提案しました」(上野)

最終的には、長方形のガラス瓶に緩やかなカーブを施したスタイリッシュなデザインを提案し、製品化が決定。さらに、伊勢神宮外宮の用材にも使用される東濃桧を使用し、枡の形をイメージした木箱のスタンドも提案しました。

「『オーダーメイド開発支援』も積極的に活用しました。AM(3Dプリンター)による試作品で、デザインの美しさや持ちやすさが想像どおりに仕上がっていることがよくわかりました。ガラスの重さに近い石膏タイプの原料での試作だったため、完成品の重さもイメージできました」(関守氏)

製品の製造段階では、瓶の製作は化粧品向けのガラス加工を得意とする企業へ、また、栓のすり合わせ部分は伝統的な江戸硝子のガラス職人に依頼。木箱のスタンドは、会津漆の職人が塗り上げるなど、複数の職人のコラボレーションによって、今までにない醤油さしが完成しました。

将来を見据えたトータル サポートが「syosa」の ネット販売を後押し

都産技研からは、今後のブランド展開を見据えてロゴデザインも提案。商品がもつ繊細な雰囲気や伝わるよう、フォント一字一字をゼロから作成しました。また、パツ



ケージやパンフレット、スタンドといった、ロゴマークが刻印される場所に応じた色使いなど、細部にまで配慮を徹底。こうして「syosa」はクラウドファンディングを活用してインターネットで発売され、すぐに売り切れるほど大きな反響を呼びました。

「今後はオリジナル商品のラインナップを拡充させるとともに、ブランド化を検討しています。「syosa」はその第1弾ということで都産技研からトータルサポートしていただき、想像以上に素晴らしい製品が出来上がり感謝しています。試作からパッケージデザイン、クラウドファンディングまで、何度も相談に乗っていただき心強かったです。これからも、都産技研のサポートを積極的に活用し、伝統と現代をつなぐ新たなオリジナル製品の開発に取り組んでいきたいですね」(関守氏)

「生活雑貨を取り巻くマーケットには、キッチン用品を同じシリーズで揃えたいというニーズがあると思いますし、おそらく、「syosa」を購入する方も同じことを考えるはず。今後、シリーズ化によるラインナップの拡充や、ブランド力の強化をお考えでしたら、ぜひアドバイスさせていただきたいですね」(上野)



関守氏(中央)を囲んでの打ち合わせの様子



城東支所
主任研究員
上野 明也

- 活用した事業メニュー
- 技術相談
- オーダーメイド開発支援

お問い合わせ
城東支所
TEL 03-5680-4632



専用パッケージ(写真左)と
パンフレット(写真右)のデザインも都産技研が行った。